

平成29年度 決算認定

平成29年度各会計状況

会計名		歳入	歳出
一般会計		224億6730万円	218億1347万円
特別会計	国民健康保険	76億6197万円	76億2466万円
	後期高齢者	9億6462万円	9億3331万円
	介護保険	47億9440万円	46億9811万円
	住宅新築資金	1153万円	434万円
合計		358億9984万円	350億7391万円
差引		8億2592万円の黒字	

千円単位切り捨てのため合計は一致しません

監査委員の意見

平成29年度の決算は、一般会計の歳入決算額は224億6730万円、歳出決算額は218億1347万円となり、平成27年度以降は、歳出決算額が200億円を超えている。基金の残高は、107億1234万円であり、対前年度比で減少。今後も安易な基金の取り崩しに頼らないよう心がけていただきたい。

市債の残高は、一般会計で201億1535万円、特別会計で697万円。今後も市債を発行する際は、少しでも有利になるような努力を重ねていただきたい。

歳入では、自主財源比率がわずかではあるが増加に転じている。今後も自主財源の確保を図る努力を継続していただきたい。自主財源の71.6%を占める税収は、人口の増加に伴い、市民税と固定資産税が増加している。しかし、総人口の伸びほど個人市民税は伸びていないので、今後、生活環境整備や企業誘致等、生産年齢人口を増やす方策を優先的に考え

て実行していく必要がある。

歳出では、扶助費が今年度も増加し、60億円に近付きつつある。これは、年少人口の増加によるものが大きい。進行する高齢化の影響もあり、扶助費も以上に増大することが予想される。また、今後は各種公共施設の長寿命化計画や管理計画をきちんと立て、健全な財政運営に臨んでいただきたい。

市税等の徴収は、毎年着実に改善方向を維持している。近隣市も含めた関係部署間の連携の強化や滞納者とのきめ細やかな対応の結果として評価したい。

しかし、依然として、一般会計及び特別会計を合わせた収入未済額は、約4億8000万円あり、特に滞納繰越分の徴収率が低い。今後、滞納者の所得区分の分析や固定資産相続の実態調査の強化など、より効果的な施策を継続して実施し、より一層の徴収努力をしていただきたい。

平成29年度はこのように使われた。（一般会計）

議会費	2億81万円	商工費	1億9656万円
総務費	26億5882万円	土木費	18億4319万円
民生費	91億1081万円	消防費	6億7694万円
衛生費	20億8738万円	教育費	26億1098万円
労働費	0万円	災害復旧費	1万円
農林水産業費	3億623万円	公債費	21億2169万円

千円単位切り捨てのため合計は一致しません

市の台所事情

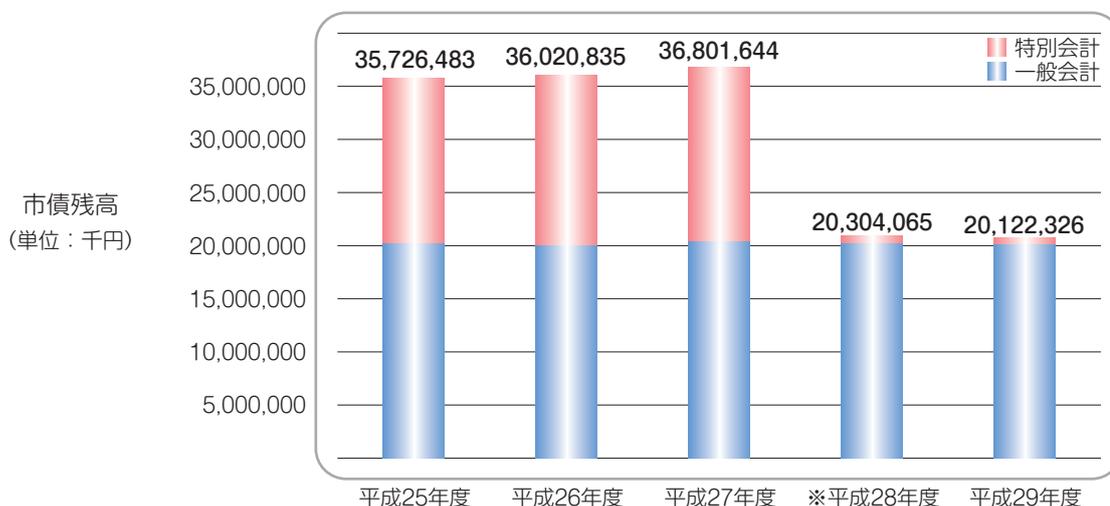
出資金 37億5122万円 (前年度 36億889万円) ※1
貸付金 (債権) 2153万円 (前年度 2478万円) ※2
預金 (基金) 107億1234万円 (前年度 110億1128万円) ※3

借金 (市債) 201億2232万円 (前年度 203億406万円)
 借金の内訳 一般会計 201億1535万円 ・ 特別会計 697万円

注釈

- ※1 出資金 宗像地区事務組合(水道事業)、むなかた地域農業活性化機構など10団体に出資。
- ※2 貸付金 住宅新築資金等貸付金。
- ※3 預金 市の経営を将来安定し運営するため、目的別に積み立てている。

市債残高の推移



※平成28年度より公共下水道事業が公営企業会計へ移行したため特別会計の市債残高が大幅に減少。

平成29年度一般会計

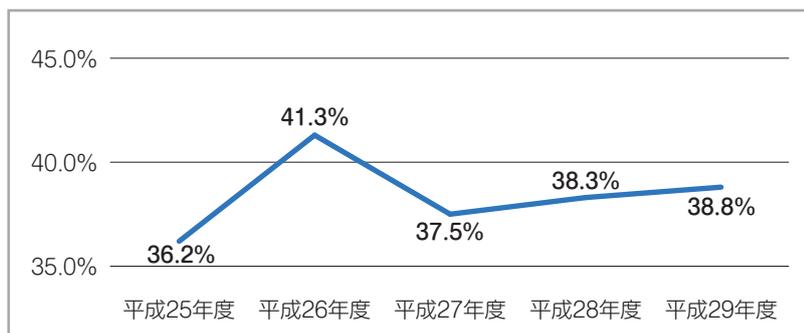
自主財源： 87億959万円 (前年度 81億7531万円)

依存財源： 137億5771万円 (前年度 131億5579万円)

財源の構成割合 市税等の自主財源は38.8% (前年度38.3%)、地方交付税や国庫支出金などの依存財源が61.2% (前年度61.7%)である。

財政構造の弾力性を測定する指標である**経常収支比率は93.3% (前年度93.4%)**

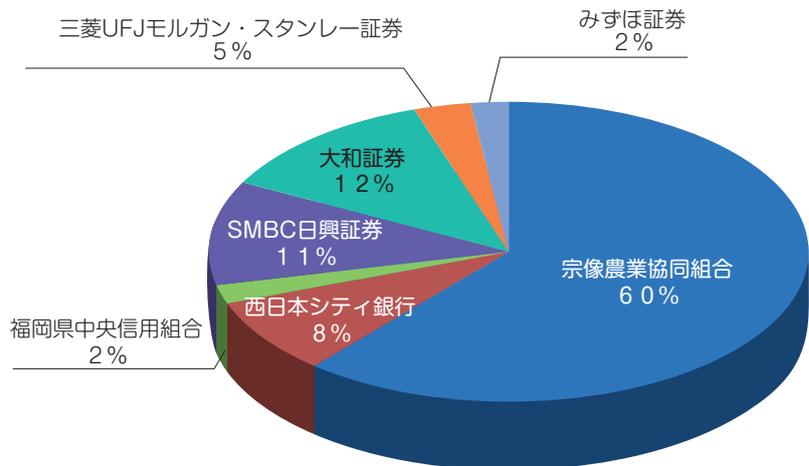
自主財源比率



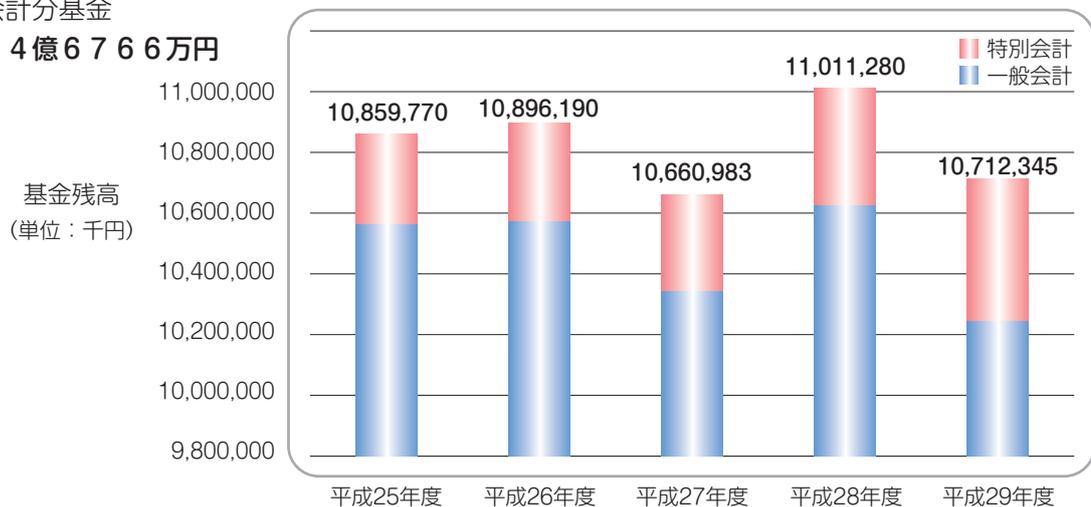
〈基金〉

- 財政調整基金
5 8 億 7 9 6 4 万 円
- 教育施設建設準備基金
1 2 億 5 1 6 7 万 円
- 減債基金
3 億 7 6 8 8 万 円
- まちづくり基金
2 5 億 1 0 6 8 万 円
- 文化振興基金
2 億 0 0 0 0 万 円
- ふるさとづくり基金
2 5 6 7 万 円
- 太陽光発電設備管理基金
1 3 万 円
- 特別会計分基金
4 億 6 7 6 6 万 円

金融機関別基金保管状況 (平成30年5月末)



基金残高 (3月末) の推移



平成 29 年度福津市公共下水道事業会計決算認定 (公営企業会計)

○業務の予定量

年間総処理水量：5 4 5 万 5 4 8 6 m³ (福間 4 1 9 万 8 8 7 0 m³・津屋崎 1 2 5 万 6 6 1 6 m³)

排水戸数：20, 571戸

主な工事

建設工事	管渠築造工事 (畦町、東福間、八並、内殿)	3 億 7 3 0 0 万 円
改良工事	管渠改築工事 (東福間)	6 5 3 6 万 円
	マンホール蓋取り換え工事 (若木台)	1 1 4 0 万 円

○収益的収入及び支出

下水道事業収益 2 0 億 1 7 8 2 万 円

下水道事業費用 1 8 億 5 5 0 9 万 円

○資本的収入及び支出

資本的収入 5 億 3 7 1 0 万 円

資本的支出 1 0 億 2 0 3 2 万 円

※資本的収入額 5 億 3 7 1 0 万 円が資本的支出額 1 0 億 2 0 3 2 万 円に対し不足する額 4 億 8 3 2 1 万 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 1 7 2 2 万 円、過年度分損益勘定留保資金 7 7 7 0 万 円及び当年度分損益勘定留保資金 3 億 8 8 2 8 万 円で補てんした。